

第1回 全国障害学生支援コーディネーター会議及び研修会 議事次第

日 程 : 平成19年10月21日(日) 10時~16時

場 所 : 筑波技術大学天久保キャンパス

議 事 :

(司会: 筑波技術大学 白澤麻弓)

全国障害学生支援コーディネーター会議

10:00~10:10 開 会

挨拶: 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター長 及川力

経緯説明: 関東聴覚障害学生サポートセンターコーディネーター 倉谷慶子

10:10~10:25 アンケート結果報告

「障害学生支援コーディネーターの設置状況」

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授 白澤麻弓

10:25~11:45 情報交換およびディスカッション

参加者自己紹介および各大学の現状報告

課題の整理と情報交換

11:45~12:00 今後の方針

(昼 食)

全国障害学生支援コーディネーター研修会

13:00~16:00

①パソコンノートテイクの導入技術 (215 教室)

講師: 同志社大学学生支援センター京田辺校地学生支援課

障がい学生支援コーディネーター 土橋 恵美子 氏

②ノートテイク体験と指導法 (213 教室)

講師: 中部学院大学

非常勤講師 瀬戸 今日子 氏

関東聴覚障害学生サポートセンター

コーディネーター 石川 絵理 氏

③コミュニケーション体験とスキルアップ (214 教室)

講師: 関東聴覚障害学生サポートセンター

コーディネーター 倉谷 慶子 氏

関東聴覚障害学生サポートセンター

コーディネーター 廣川 麻子 氏

愛媛大学

アカデミックアドバイザー 原田 美藤 氏

国立大学法人 筑波技術大学

全国障害学生支援 コーディネーター会議

障害学生支援コーディネーターの設置状況
事前アンケート結果報告

国立大学法人 筑波技術大学

方法

- 大学機関への調査：
大学紹介を記載いただいた大学 16校
- 支援担当者への調査：
本会議に出席した支援担当職員 38名
→回答 30名
- 質問内容：
支援組織・担当者の処遇・仕事内容など

国立大学法人 筑波技術大学

1. 大学の設置形態

設置形態	校数	割合
国立	2校	13%
私立	14校	87%

N=16校

国立大学法人 筑波技術大学

2. 支援組織の形態

職	支援組織	校数
全学学生課・学生支援センター内の設置: 6割	障害学生支援室	3校
	障害学生支援担当	4校
	ボランティアセンター	1校
全学教務課	一般職員	2校
	障害学生支援担当	1校
学部教務課	障害学生支援室	1校
全学ボランティアセンター	障害学生支援担当	2校
	障害学生支援室	2校
学長直下	ボランティア活動室	2校

障害学生支援室: 5校

国立大学法人 筑波技術大学

3. 支援担当職員数

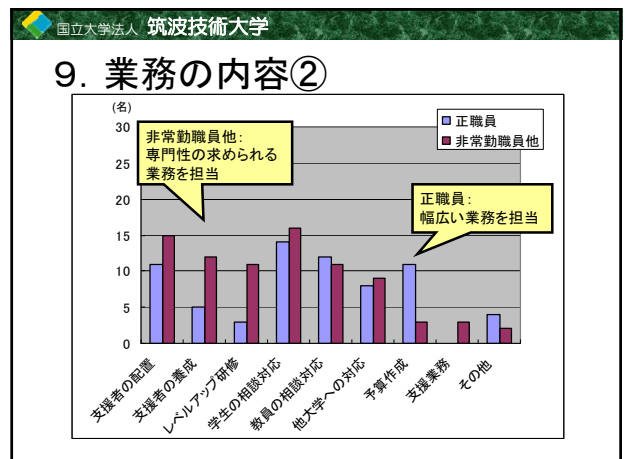
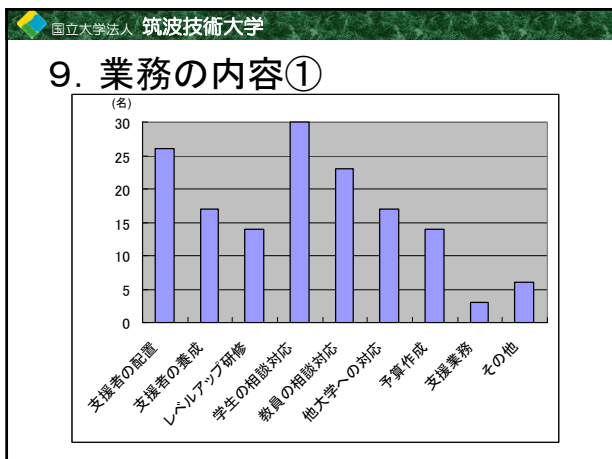
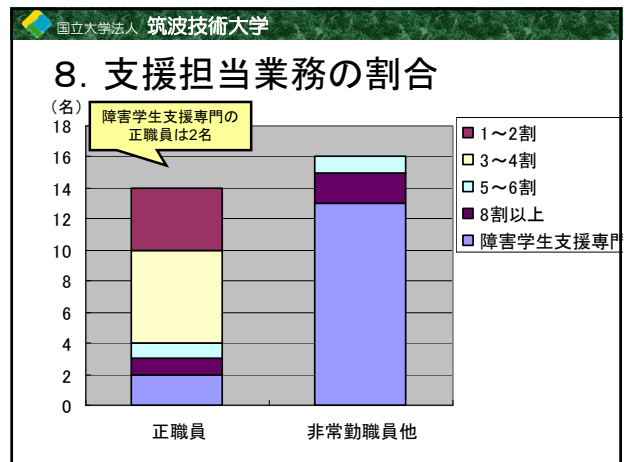
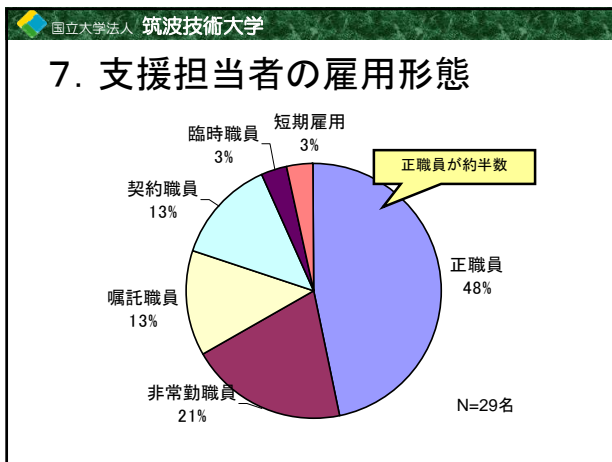
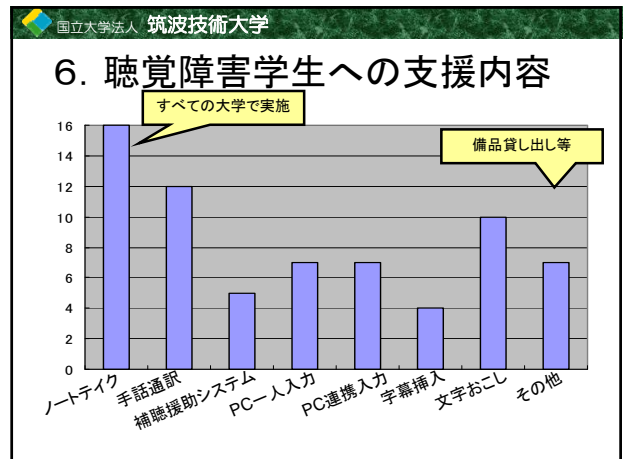
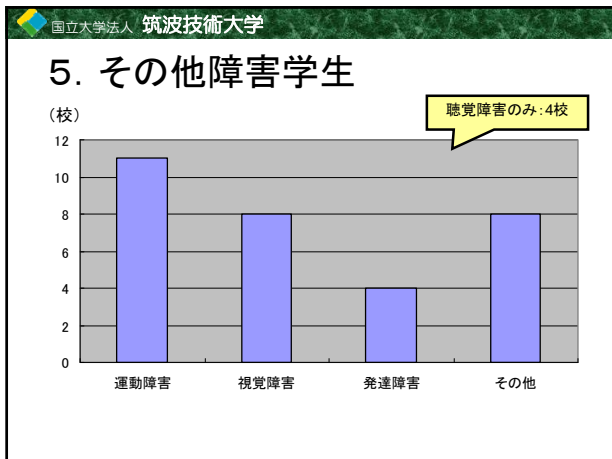
(校)

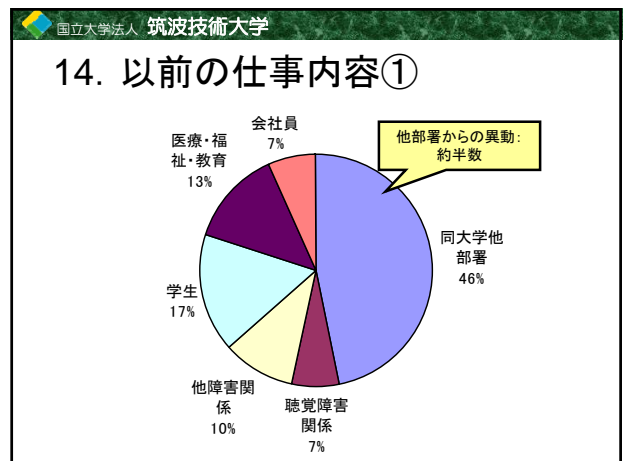
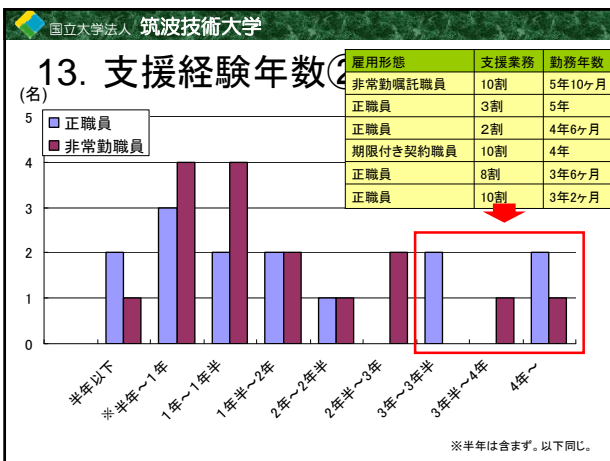
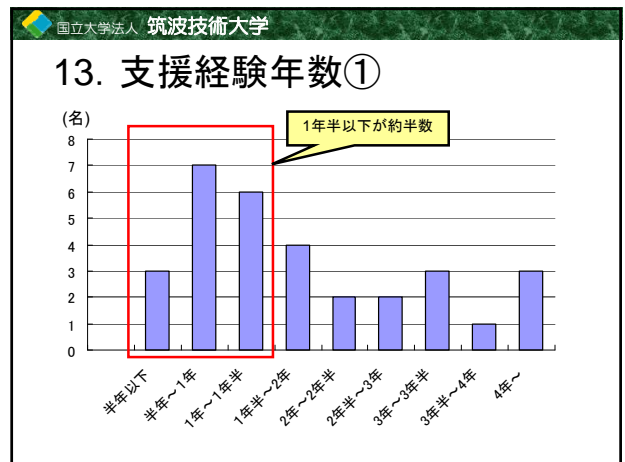
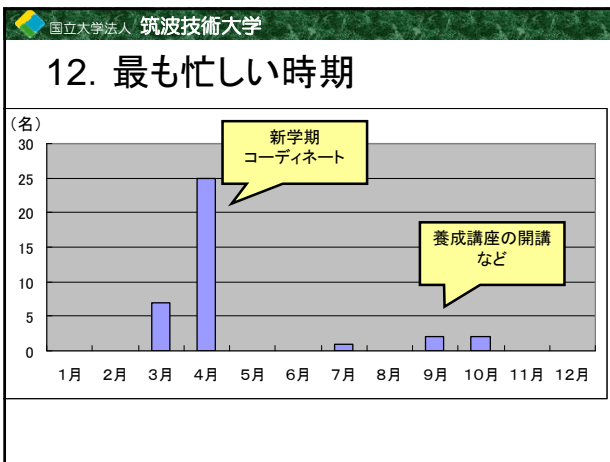
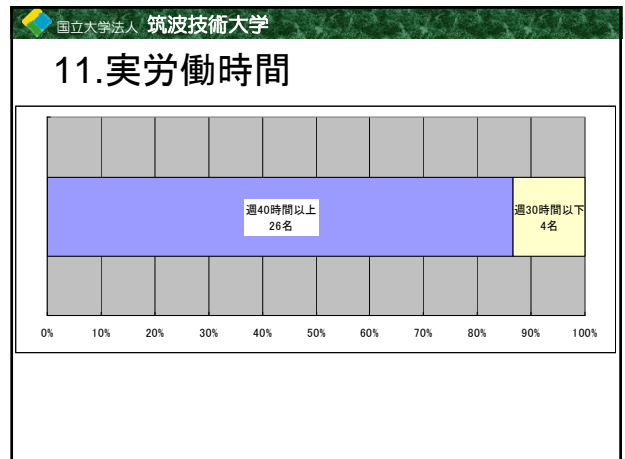
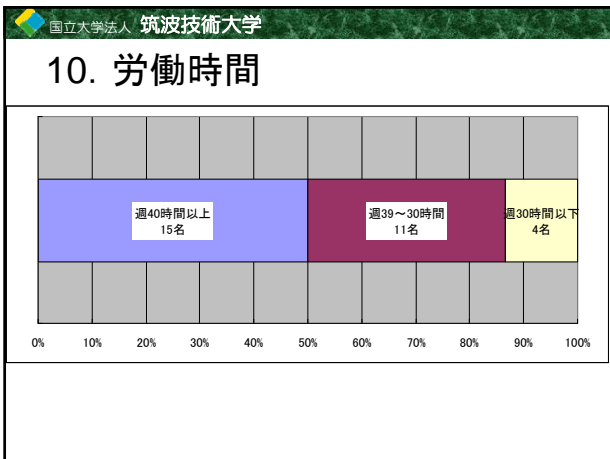
職員数	校数
1名	3
2名	6
3名	4
4名	1
5名以上	2

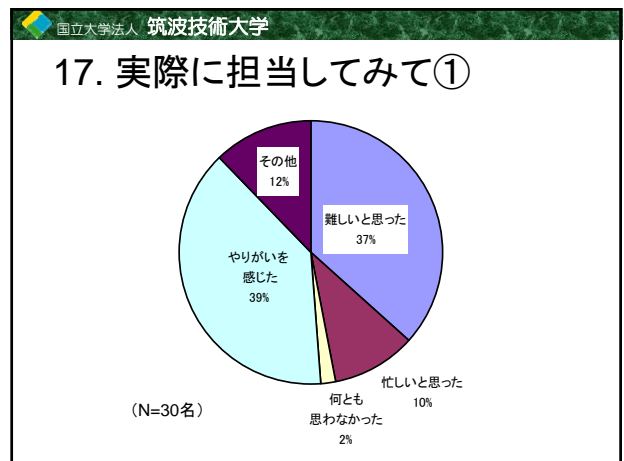
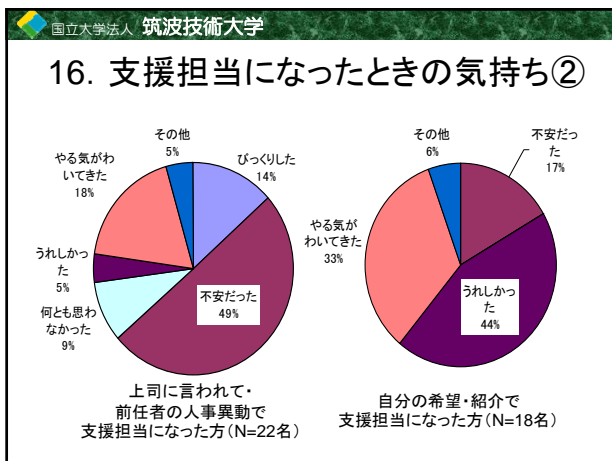
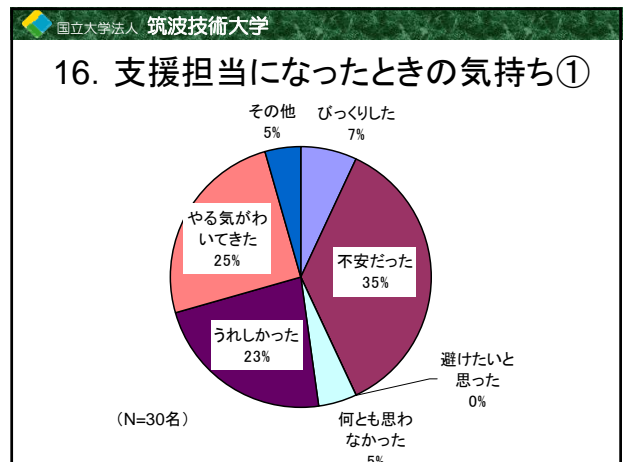
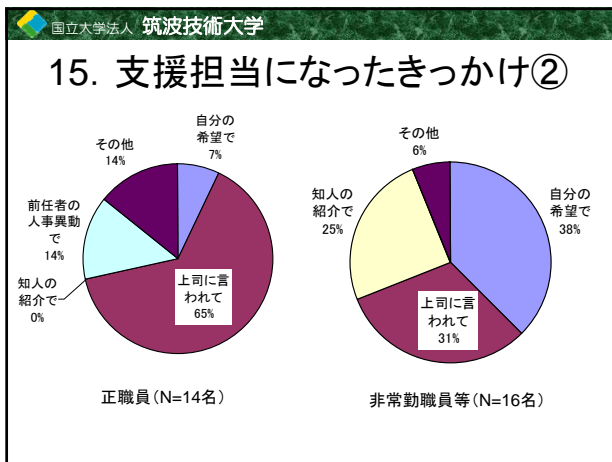
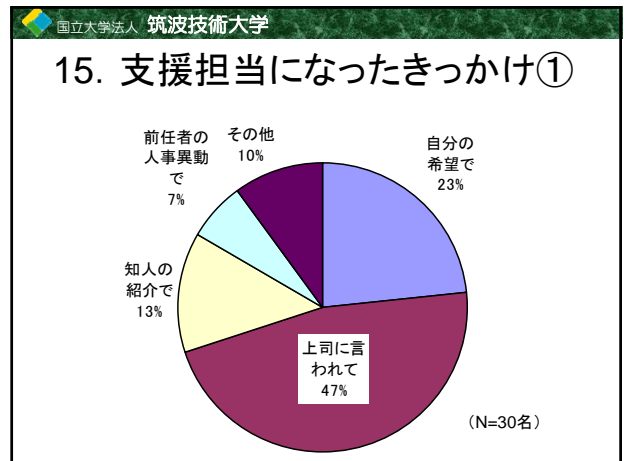
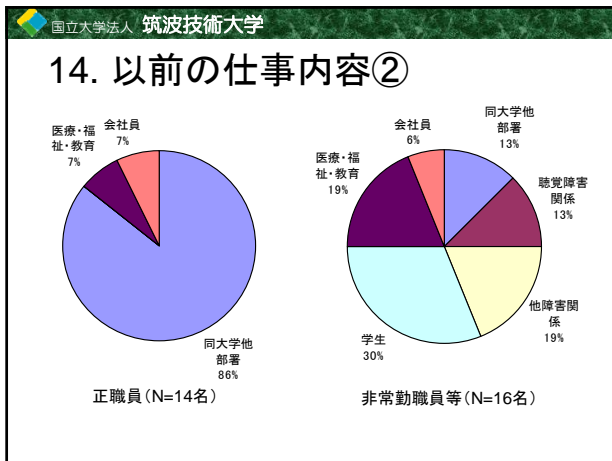
国立大学法人 筑波技術大学

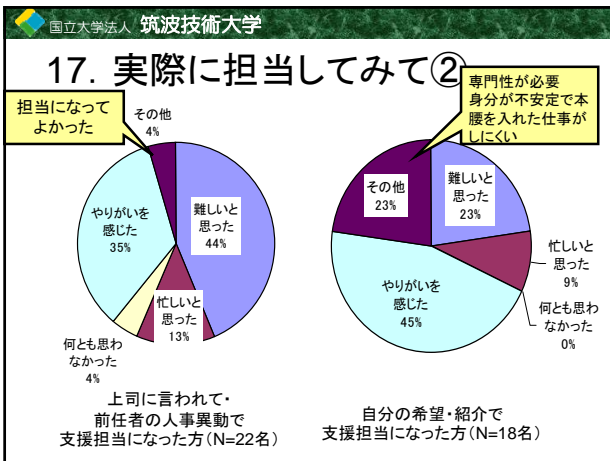
4. 聴覚障害学生数

聴覚障害学生数	聴覚障害学生数	支援を受けている学生数
なし	1	1
1~2名	4	5
3~5名	4	5
6~10名	4	3
10~20名	1	1
20名以上	2	1

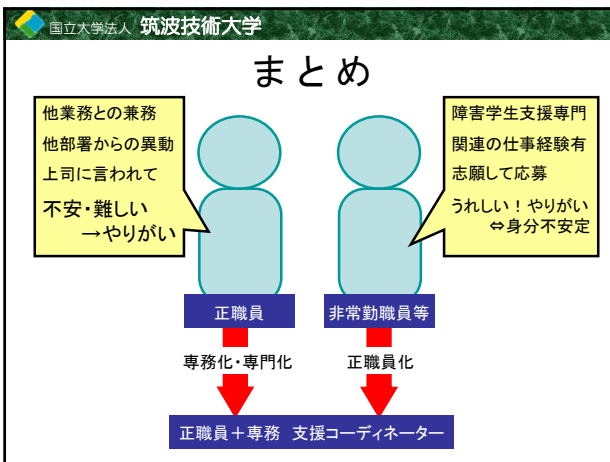








- 国立大学法人 筑波技術大学
- ### 18. 一番難しいと感じること
- 障害学生とのコミュニケーション・ニーズの把握と尊重
 - 障害学生のニーズと現実的制約の兼ね合い
 - 他の教職員への理解啓発
 - 障害学生と支援学生、他障害の学生との関係調整
 - 高い専門性が求められること
 - その他(支援学生の確保)



第1回 全国障害学生支援コーディネーター研修会

当日資料

日 程 : 平成19年10月21日(日)

場 所 : 筑波技術大学天久保キャンパス

プログラム :

①パソコンノートテイクの導入技術

講師：同志社大学学生支援センター京田辺校地学生支援課

障がい学生支援コーディネーター 土橋 恵美子 氏

②ノートテイク体験と指導法

講師：中部学院大学

非常勤講師 瀬戸 今日子 氏

関東聴覚障害学生サポートセンター

コーディネーター 石川 絵理 氏

③コミュニケーション体験とスキルアップ

講師：関東聴覚障害学生サポートセンター

コーディネーター 倉谷 慶子 氏

関東聴覚障害学生サポートセンター

コーディネーター 廣川 麻子 氏

愛媛大学

アカデミックアドバイザー 原田 美藤 氏

■ ■ ■ 全国障害学生支援コーディネーター研修会 ■ ■ ■

①パソコンノートテイクの導入技術

講師：同志社大学学生支援センター京田辺校地学生支援課
障がい学生支援コーディネータ 土橋 恵美子氏

◆スケジュール -----

1. ヒアリング…パソコンノートテイク支援で不安なことは？
2. IPtalk のインストール～設定（説明と実習）
3. パソコンノートテイク実習と反省会学生

◆研修 MEMO -----

パソコンノートテイク 導入の技術

同志社大学 学生支援センター
土橋 恵美子

1

PCノートテイク導入を選んだ理由は？

- なぜパソコンノートテイクなのか？
 - ・
 - ・
- パソコンノートテイクで一番不安な点は？
 - ・
 - ・
 - ・

2

パソコンノートテイク導入の流れ

- 機器の接続
- IPアドレスの設定
- IPアドレスの割り振り
- IP-talkの設定
- 機能の説明
- 入力・要約の説明
- 入力・連携の練習

3

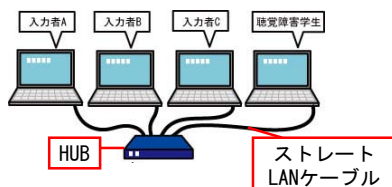
IPtalkとは？



パソコン要約筆記は、その場にある音情報を文字入力により伝えるもので、聴覚障害者への情報保障の手段の一つです。ワープロソフトなどを用いて行うこともできますが、一般的にはIPtalkなどの専用ソフトを用います。

4

機器の接続



入力用パソコンと表示用パソコンをそれぞれHUBを用いて接続します。

5

IPアドレスの設定 (Windows XP編)



- ① 「スタート」-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット接続」をクリックし、「ネットワークの接続」をクリックします。

6

② [ローカルエリア接続] を右クリックしメニュー内の [プロパティ] をクリックします。

③ [接続の方法] に LAN アダプタの名称が表示されていることを確認後、[インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。

7

④ [インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] 画面で [次の IP アドレスを使う] にチェックを入れます。

8

IPアドレスの割り振り

IPアドレス (特に規定がない場合には、192.168.XXX.YYY を用いることができます)
 192.168.1.YYY (3番目までの数字をそろえ、YYYの部分が重複しない数値に設定)
 サブネットマスク
 255.255.255.0
 各パソコン同じ数値に設定

⑤ 入力後、[OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。

9

IPtalk 接続の確認

- ① [パートナー] ウィンドウを開き、[メンバーを探す] をクリック
- ② 仲間の欄に接続したパソコンが表示されることを確認
- ③ [表示・入力] ウィンドウで、LANに接続したパソコンに文字が流れるかどうか確認

10

IPtalkの基本画面

表示部 (利用者が見る画面)
 モニター部 (パートナーの入力が表示される)
 入力部 (自分の入力が表示される)

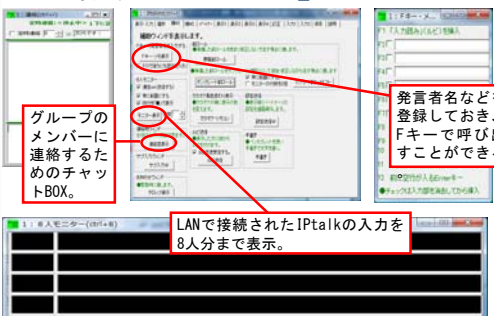
11

各種設定方法 タブ「選択」

機能は「上級者用を選択しましょう。「初心者用」と比べ、便利な機能のタブが多く表示されます。

12

タブ設定「補W1」




グループのメンバーに連絡するためのチャットBOX。

発言者名などを登録しておき、Fキーで呼び出すことができる。

LANで接続されたIPtalkの入力を8人分まで表示。

13

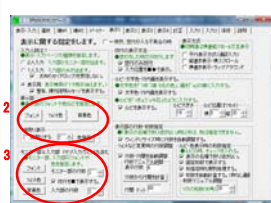
タブ設定「表示1」



1: 現在操作しているパソコンを「入力用」か、「表示用」に設定します。「1人入力」または「2人入力」を選択します。

14


タブ設定「表示1」



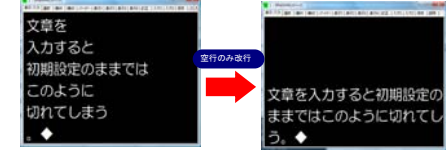
2: 表示部の背景色や、フォントの大きさ・色を設定します。利用者に見やすさを確認してもらい、設定します。
(例) フォント... 22ポイント
フォント色... 白
背景色... 黒

3: モニター部&入力部の設定をします。入力者の見やすいように設定します。
(例) フォント... 18ポイント フォント色... 黒 背景色... 白

15

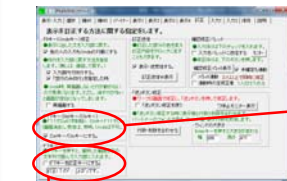


4: 「空行のみ改行」を選択することで、文章が切れて表示されるのを防げます。




16

タブ設定「訂正1」




この設定により、F11キーを押すと、表示部に流れた文字を後ろから1文字ずつDeleteできます。

F7キーを押すと、『訂正: ↑の「」は「」です。』と入力部に表示されます。

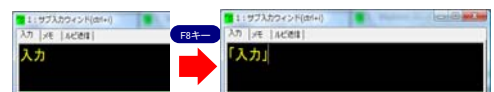


17

タブ設定「入力1」



F8キーを使用し、入力文・単語の前後をカッコでくくります。F8キーを押す時に、入力部に表示されている文字列にカッコが付きま。



18

タブ設定「入力2」



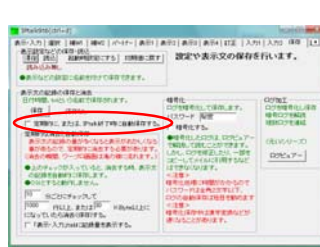
- 1: 単語を漢字変換した後、F1キーを押すと、カッコ内に読み仮名が表示されます。
- 2: 「。」が付くたびに、自動的に改行ができます。改行は意識して多く入れるくらいのほうが、表示された時に読みやすくなります。



ひらがな表記・カタカナ表記を選択できます。

19

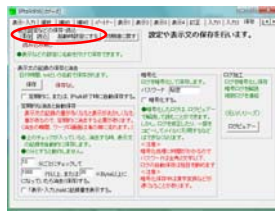
タブ設定「保存」



入力した情報は、テキスト形式で保存することができます。

※ログの取り扱いについては、大学の方針や聴覚障害学生のニーズにあわせて行ないましょう。

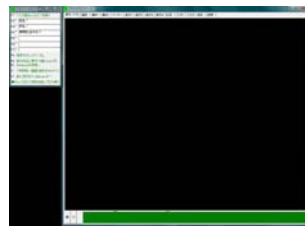
20



細かく設定したIPtalkの画面を、次回起動時にも同じ状態で表示させるために、「起動時設定にする」を指定します。また、情報保障画面毎に画面の設定を変更したい場合は、画面設定後「保存」し、次回起動時に「読込」を指定して保存したファイル呼び出して使用することができます。

21

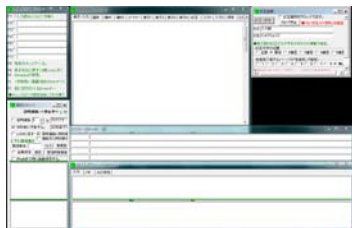
ウィンドの配置モデル(1人入力)



利用学生によって、「入力部も見たい」「背景とフォントの色を変えて欲しい」等、ニーズが様々だと思いますので、確認しながら調整を行って下さい。

22

ウィンドの配置モデル(連携入力)



表示用の画面がある場合、また、プロジェクタ等で大きく表示する場合も、表示画面とメインウィンドに表示される文字列が同じように設定しましょう。

23

Fキー機能の説明

- F 1: 漢字の後ろに()で読み仮名が表示
- F 2~F 6: 『学生』『読み上げ中』など設定文字を表示
- F 7: 入力部に『訂正: ↑の「」は「」です。』と表示
- F 8: 入力文・単語を「」でくくる
Shift+F8で ♪ ♪ でくくる
- F 9: 表示部に流した文を入力部に戻す
- F 11: 表示部に流れた文字を後ろから1文字ずつ Delete
- F 12: 前に空行が入るEnterキー

24



チェックポイント

- 文章がきちんとつながっている
- 「、」や「。」がきちんと入力されている
- 適度に改行が入り、見やすく整形されている
- 漢字の変換ミス等がなく、正確な情報が入力されている

25

②ノートテイク体験と指導法

講師：中部学院大学 非常勤講師 瀬戸 今日子氏
関東聴覚障害学生サポートセンター コーディネーター 石川 絵理氏

◆スケジュール

I ノートテイク体験と評価

1. ノートテイクの利用体験・・・ノートテイクを利用する（＝受ける）立場を体験します
2. ノートテイクを書く体験・・・授業を想定してノートテイクを書いてみます
3. ノートテイクの自己評価・・・自分の書いたノートテイクを自らチェックし発表しあいます
4. ノートテイク評価・・・学生の書いたノートテイクを見て、アドバイスのポイントや
コーディネーターとしての対応を検討します。

II スキルアップやコーディネート方法の情報交換

◆研修ワークシート

I ノートテイク体験と評価

1. ノートテイクの利用体験

体験を通して気づいたことはありますか。日常の業務での課題解決につながる発見はありましたか。

2. ノートテイクを書く

ノートテイクを書いてみて、感じたこと、気づいたことはありますか。感想を書いてください。

3. ノートテイクを自己評価する

①自分の書いたノートテイクへの自己評価を記入してください。

評価の観点を設定していただいてもかまいませんし、自由記述でもかまいません。

②他の参加者の自己評価や、講師のコメント、利用者からの評価の中で、参考になったことや重要だと思ったことを記入してください。

4. ノートテイクの評価

①グループでのノートテイク評価で話し合った内容や、他のグループの意見で参考になったことを記入してください。

②授業で行われているノートテイク支援を評価する際、どのような視点が必要だと考えましたか。

I スキルアップやコーディネートの情報交換

参加者から寄せられた意見・質問

①ノートテイカー養成について

- ・学生を対象とした講座の内容、時間数、講師など開催スタイルは？
- ・外部講師の指導だけでは不十分ことも。フォロー方法は？

(例：指導される内容が大学の支援に合わない、講座以外の場面での技術指導法がない)

- ・スキルアップ講習の参加者が少ない。どんな内容を扱えばよいかわからない。対策は？

○講座以外に「要約の勉強会」を開催

○コーディネーターもノートテイクに入り、現場の様子を見てテイクの技術指導や心理的ケアを実施。

②コーディネートについて

- ・テイカーの数が足りず、ニーズを満たせない。対策は？
- ・養成したテイカーは、いつどんなタイミングで現場に派遣すればよいか？
- ・年度初め（4月）の授業にノートテイカーをうまく派遣するには？

③授業での支援方法について

- ・演習（ディスカッション）の授業をノートテイクで支援する際の工夫は？
- ・語学の授業のノートテイク方法は？
- ・理系の授業でのノートテイク方法は？

-----MEMO-----

こないだ「自分の長所を見いだす」という話をした。

そうすると、人様にも聞いてもらえようまでに可なりはどうかは、

という プレゼン を聞いた。

前向きな メッセージ だと思う。

→ 聞いてもらえようかな 人生の豊かさを増やすために。

はじめ、まずは レジュメ、ゴール をすること。

→ (二つは今日で考えた。

昔の数 ゴール をするほうに、もう、あやこは言うす、

たことん ゴール をすることです。

ゴール を「ゴール」よ、ものを 選ぼう として、えらぶ。

ゴール がなければ「め」。

あなたに「2000に書こう」と思えば、くり返し

ゴール を大切に、「次」っていうのはなく、ポイントと

ゴール 的に ゴール をすること。

山形で私は カウンセリング についてのクラスをしている。
サポロや海外でも。

↓
という人との関係の中で、言われたことと

そのままだと - すきという レニニ がある。

わかれば「すぐ「次。」とすすめてくたすか、数ヶ月と
テニテ すき人がいる。

アカイアキという人。アキアキで7年間まなび、
能力があり言われた人。私を助けてくれる。

ととも有能な人だ。企業などで コウケン が
「進みから10分くらい話してあげた。といった。

彼は「めんたい」と受けなかった。つまり、ホニニ

と、自動的にやり、レニニ として、今は私よりうまく
話す。これは ↓ 正しいホニニから。

逆の人もいる。ホニニしていないのに、早く ぶい に上が
りたがる人もいる。

2回生 ノートテイク歴 半年 ()

この前、自分の長所を見つけてという話をしました、
~~練習~~、前向きな質問をいただきました。

練習をすること、テイクをすることが大切。

昔から、教員にこそすること大切といわれている、
基本なしには、選んでいこうがなく、ていねいに
字をかくこと、たう、基本を大切に、テイク
すること大切である。いろいろな場所での
力り=セリニングを私はしている。練習が
あふ、次、次と思うけれど、教員に
している。

私を助けていろいろな話をしてくる。お話を
できる、10分ぐらい話をしてくるとたのんで
けれど、彼は二つわ、た。 ~~本~~

教員に話をしない、はじめに評価を
もらってしまうと、よくない。 ~~本~~

よへ上へというのをおさえて、教員に必要
があるのでも。

この間、「自分の長所を見出して」という話をしたら、「見出して、育てるにはどうするか」という向い合わせがあった。自分が食べるのではなく、買っていただけの料理を作るのには、「練習、けいこをする」とにつきるようです。

者から「教げいこ」といい、沢

山沢山「けいこ」をやるんです。

心に決めたら、くり返しくり返し、

基本を大切に、徹底的にボク

ントを練習するにつまるようです。

私は、カウンセリングのクラスを

山形、大阪など、海外でしては。

その人さまとの関わりの中で、きい

たことを臆せせず、その女ま工一
ま

今日は、レインジャー、ケイコ に
ついて。

昔から、数ケイコをする。

とにかく、あなたが"心"に決めて
くり返し基本を大切に、てっぺい的
にそのポイントをケすることにする。

私はカウ・セリングのクラスを
せっている。

カ ←
_____ といふ人とあがが

わりの中で。

この間、自分の長所を見出してという

話した。



_____、それを人前に、人さま

に見てもらえるようにするのは

どうしたらいいかというシツモン

もらった。

自分が食べる料理ではなく、お金

を出して かって もらえる料理を

つくるためには、練習、ケイコを

すること。

/ このあいだ、「自分の長所を見出して」について話したら、
 長所を人様に 見てもらえ子まで 育て子には? とう
 といあわせがあつた。成長した... とう 前向きな
 質向です。 お金を出して 買ってもらえ子料理にす子には?
 それは 「タイコ」 練習 に つきま

/ まず、昔から 数タイコ をす子ように。 とう。 とうにか
 にくさん (4) をす子こと。 基本をしておいて 良... ものを
 えらぼうとしても ソザイ が なければ できま。
 「このように 生きるぞ」と 思つたら、くり返し 基本を大切に
 す子。 「まあ次!」 では なく、下々の に 基本をす子

/ 私は ^{のクラス} (カ) の セリング を してゐる。 この (カ) の 中で、
 よく 話をきく、言われたことを そのまま エコー す子。 とう
 練習をす子。 次へ すすみたくはるのに、数タイコ を くり返し
 人がいる

カ / とう カタで 7年 学んできた。 できた方がいる
 いつも 助けてくれている。 以前、「あはれにも いらん所ので
 講演してごらん」と 言いました。

ノートテイク体験・評価用題材

テーマ「稽古」(出典 田中信生 ジョイフルメッセージ)

この間、「自分の長所を見出して」というお話をさせていただきましたら、ええ、自分の長所を見出して、それを一人前に、そして人様にも、聞いて見てもらえるまで育てるには、どうしたらよいかという問い合わせをいただきました。興味深い、また、豊かに成長していきたいという思いがあるからこそ、そのような前向きな質問を下されたんだろうと思います。ものごとを人様に見て聞いていただける、そのように自分が食べる料理ではなく、お金を出しても買っていただけるような、そんな人生の豊かさを、料理を作るためにいくつかの。そう、1番目、それは何と言っても練習をすること、稽古をすることに尽きるのではないのでしょうか。今日はその練習、稽古について考えてみたいと思いますが、1番、昔から、数稽古をするように。すなわち、もう1つ2つと言わず、もう、あれこれ言わず、とにかく、たくさんたくさん、この稽古をすることですよねえ。よく、その基本をしないで、『さあ、良いものを選ぼう、良いものを選ぼう。』と言っても、選ぶ素材そのものがなければ、選びようがないわけで、とにかく、あなたが心に決めて、「よし。丁寧に字を書くぞ」あるいは、「このように生きるぞ」と思ったら、それを繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し、基本を大切に、「さあ、次。さあ、次」ということでなくして、徹底的にそのポイントを稽古なさることに尽きるようです。私は、あの、カウンセリングというクラスを山形市でも、クラスをさせていただいておりますし、札幌でもそして、大阪でも、沖縄でも、また海外でも、このクラスをさせていただいているんですが、カウンセリングという、この、人様との関わりの中で。例えば、よくお話を聞く。あるいは、言われた言葉をそのまま脚色しないで、エコーする、という基本的な、この、練習がありますが。この、そのようなことをですね、「次、次」と、わかったら次と、進みたくするのに「いや、いや、いや。まだです。このところをまずやってから、いきたいです」というふうに、数稽古を徹底的にやる人がいますね。私と一緒に働いてくれております、タカノアキラというすばらしい先生がいますが、ええ、この人はカナダで7年間いて、あの、学んでこられた人で、で、私以上に能力のあって優れた方なんです、うーん、私を助けて、そしていろんな働きをしてくださるのです。それで、当初、働いてくださいました時に、大変、有能な方ですので、『あなたも私と同じように、企業や学校やいろんな所で講演ができる、お話ができる。ですから、さあ、今日、前座で、この、10分ぐらいお話ししてごらん。』とこう言いました。彼はですね、『先生、残念だけど、せっかくの機会だけど、ごめんなさい。』彼はそれをですね、受けなかったんですね。すなわち、もっともっと基本を徹底的にやってから。そして彼は来る日も来る日も練習をして、そして私以上に今は上手にお話しなさる。それは数稽古、基本を徹底的になさったからだろうと思うのです。そうでない逆の人もありますね。『早く私にチャンスくれ。』『早く自分に舞台に上げろ。』基本をしていないと、早めその人の評価を得てしまつて、一旦評価を受けてしまうと、なかなかそれを、その印象を取るのに大変なことがあるものです。だってもう実力があるのに、基本ばかりやっていて、大丈夫です。あなたがチャンスを追いかけてなくても、基本が出来て実力がつきますと、チャンスの方であなたを必ず迎えに来るからです。上へ上へと伸びたい思いをぐっと堪えながら、基本的なところをしっかりと繰り返し、繰り返し、そして繰り返し、繰り返し。そこに豊かさへ登りつめる秘密があるようです。

■ ■ ■ 全国障害学生支援コーディネーター研修会 ■ ■ ■

③コミュニケーション体験とスキルアップ

講師：関東聴覚障害学生サポートセンター コーディネーター 倉谷 慶子氏

関東聴覚障害学生サポートセンター コーディネーター 廣川 麻子氏

愛媛大学 アカデミックアドバイザー 原田 美藤氏

◆スケジュール -----

I コミュニケーション体験

声を使わず視覚情報のみで、様々な場面でのコミュニケーションに挑戦します

II コミュニケーションのスキルアップ（面接のロールプレイ）

聴覚障害学生との面談を行う場面を想定して、ロールプレイを行います

ディスカッションで改善策を出し合いながら進めます

◆研修ワークシート -----

I コミュニケーション体験

☆体験の感想を書いてください。

1. 「これから先は声を出さないで会話をします」と言われたときにどう感じましたか？

1. 病院の受付で何か困ったことがありましたか。それを解決するためにどうしましたか？

3. 駅では、ホームの案内、時間の遅れなど、多くのアナウンスがありますが、ろう者はどんなことで困っていると思いますか。それをどうしたら解決できると思いますか？

4. レストランでは思うように注文ができましたか。注文できた人はなぜできたと思いますか？

5. ろう者は日頃、具体的にどんなことで困っているのでしょうか。

またそれらの問題をどうしたら解決できるのでしょうか？

Ⅱ スキルアップ（ロールプレイ）

☆聴覚障害学生と話し合いをどのように進めれば、現状の改善を図れるでしょうか。

どんなコミュニケーション手段を使いますか？どのようにして学生からニーズを引き出しますか？
次のような事例について、考えてみましょう。

①入学前の3月ごろ

聴覚障害があるという申し出を受けて面接を行った。

学生は小～高校まで普通校に通っていて、情報保障支援の利用経験はない。

コーディネーター：ノートテイクという支援方法があるから利用してみませんか？

学生：高校までは補聴器の活用と口話で、自力で勉強してきた。

大学でも同じようにしてできるので、ノートテイクなどの支援は要らない。

コーディネーター：？？？（このあとの会話を続けてみてください）

②2年生前期の途中

1年生前期からノートテイクを利用している学生。手話は大学に入ってから
覚え始めていて、現在は友人と日常会話ができる程度。

毎回ビデオ教材を使う授業を担当しているテイカーから大変だという訴えを受けて
授業の様子を聞いてみた。

コーディネーター：ビデオを見るときのノートテイクが追いつかなくて大変みたいだけど？

学生：書いてくれたことを見ているので、大丈夫です。手話もできないから手話通訳も
付けられないし、今のままでいいです。

コーディネーター：？？？（このあとの会話を続けてみてください）

③3年生後期：

本人から、ノートテイク支援に不満があるという意見を受けて面接を行った。

手話は友人との日常会話で使用している。

学生：専門の授業の場合、学生ノートテイカーは技術が低くて不満がある。

今とっている専門科目の授業にはプロの手話通訳をつけてほしい。

コーディネーター：？？？（このあとの会話を続けてみてください）



☆スコアカード☆

氏名 ()

	病院		駅		レストラン	
	ろう者 (受付)	見張り番	ろう者 (駅員)	見張り番	ろう者 (おI付)	見張り番
1	0・1・2		0・1・2		0・1・2	
2	0・1・2		0・1・2		0・1・2	
3	0・1・2		0・1・2		0・1・2	
4	0・1・2		0・1・2		0・1・2	
5	0・1・2		0・1・2		0・1・2	
計	/10	/10	/10	/10	/10	/10

総得点

/60



ルール

- ① 絶対に声を出さない。
- ② どこから回ってもよい。

注意

- ① 病院では、受付の人の質問に答えてください。
- ② 駅では、行きたいところのきっぷを買ってください。
- ③ レストランでは、料理・飲み物・デザートを注文してください。

いろいろな方法を使って伝えてね!

聴覚障害学生の心理的支援

さまざまな聴覚障害学生

聴覚障害は、失聴の時期や聴力の程度、受けた教育等によって、その状況が一人一人大きく異なります。それゆえ、コミュニケーション手段も必要なサポートの種類も実にさまざまです。また、同じ一人の聴覚障害者でも、聴力の変動や意識の変化にともなって、必要とするサポートが変わっていくこともあります。とりわけ、手話を習得したり、同じ聴覚障害のある仲間と出会ったりする機会の多い大学時代には、2年間もしくは4年間のうちにめざましく変わっていく聴覚障害学生も見られます。

支援がもたらす心理的葛藤

このような過程では、「入学時はほとんど話さなかった学生が楽しそうにおしゃべりするようになった」「サークルのリーダーになった」といった学生相応の成長も見られますが、同時に、「いくらすすめても通訳を依頼しない」「話し合いの席にすら来ない」と、拒絶的な態度を示されることも多々あります。

現時点では、大学に入ってはじめてサポートを受ける聴覚障害学生が大半ですので、未知の経験に対する戸惑いが大きく、最初からスムーズに支援に入っていける学生はまれです。また、サポートを受けて授業を理解できるようになる半面で、サポートによって自分の障害とも向き合わざるを得ませんので、心理的葛藤を避けられません。一年生の時から「自分は聴覚障害がありますのでサポートをお願いします」と意思表示する学生は少数ですし、ましてや「読みにくいからもっと大きな文字にして」「この講義には手話通訳を、あの講義にはパソコン通訳を」と注文する学生は珍しいでしょう。時には勉学が手につかなかったり、それまでの生き方を疑ったりするほどの心理的負担を感じることもさへあります。

つまり、授業がわからなくて困っているとはいえ、嬉々とサポートを受ける学生ばかりではないのです。はじめは喜ばれたサポートも時間とともにだんだん要求がレベルアップしていきがちです。必要と思っただけのサポートが必ずしも喜ばれるわけではないところに、サポートの難しさがあると言えるでしょう。

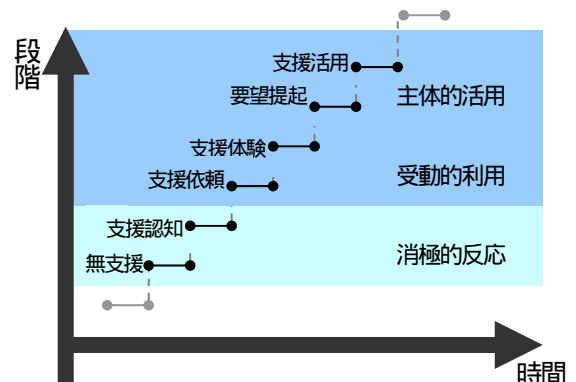
一方で、この時期に良質なサポートを受けることが、聴覚障害学生の精神的成長においてきわめて大切になることも事実です。サポート利用上のルールを守らない、手話以外のコミュニケーション手段を拒むなど、反発的な態度に出会う例も少なからずありますが、そこでの見守りや働きかけが、聴覚障害学生のまわりへの信頼感をかううじてつ

ないでいくとも言えます。

心理的葛藤から主体性形成へ

サポートを受ける中では、具体的にどのような心理的葛藤が生じるのでしょうか。すべての聴覚障害学生が同じように感じ、受けとめているわけではありませんが、大きく以下の3つの段階に分けられ、ステップを追っていく点では共通していると考えられます。

- (1) 消極的反応段階：支援を躊躇、拒否する段階
- (2) 受動的利用段階：受け身で支援を受ける段階
- (3) 主体的活用段階：自ら積極的に活用する段階



聴覚障害学生の支援に対する受けとめ方の変化

(1) 消極的反応段階

無支援：支援があることすら知らない状態です。

支援認知：「手話通訳」「パソコン通訳」等の手段があることを知ります。しかし、高校まで一人で頑張ってきた聴覚障害学生には「自分は人に助けをもらうほど困っていない」「支援がなくてもやっていける」と思いがちです。また、「依頼しようかどうか」と迷っているうちに、4年間が終わってしまう学生もいます。

(2) 受動的利用段階

支援依頼：やっと通訳依頼にふみきります。が、ここでも「まわりに聴覚障害を知られたくない」「隅っこの方で目立たないように」等の葛藤を抱えがちです。

支援体験：はじめて通訳をつけてみると多くが「授業ってこんなに面白かったのか!」と感激します。経験を重ねるとともに次第に「もっとたくさん情報を流してほしい」と要求が高まりますが、実際にそれを口に出すまでには時間がかかることが多いでしょう。

(3) 主体的活用段階

要望提起：これまで受け身だった通訳に対して、ようやく自ら要望を出します。まさしく、情報保障の「依頼者」から「利用者」に転換していくときと言えるでしょう。そ

れまで我慢を重ねたあまり、強い言い方で要望を突きつける学生も少なくありません。

支援活用：通訳者や支援者との距離のとり方を身につけていきます。「この授業にはこの手段を」と判断したり、まわりの先生や友達に配慮してほしいことを適切に伝えたり、通訳者にタイミングをつかんで声をかけたりすることができるようになっていきます。

各段階に応じた支援

それでは、大学としてはそれぞれの段階に応じてどのような支援を心がけたらよいのでしょうか。

(1) 消極的反應段階での支援

ある大学では、聴覚障害の新生入生に「どのようなサポートが必要ですか」と聞いたとき、「口話でわかりますから大丈夫です」と返ってきました。先生から「入学前に一度授業を見に行ってください」とアドバイスしたところ、「やはり口話ではわかりませんでした」と、実際にどうするか話し合いが進んだとのことでした。

また、他のある大学では、「本人はサポートを断っているが、一度、授業に通訳をつけてみて様子を見たい」と、動いたところ、本人も一年が終わる頃には積極的になってきたという例もあります。

本人の拒否する気持ちを受けとめつつも、「いいですね」という言葉をうのみにせず、潜在的ニーズを引き出す丁寧な対応が効果を奏した例と言えるでしょう。

(2) 受動的利用段階での支援

聴覚障害学生から「してほしい」と声があがっていないから大丈夫かなと、安心しがちな時期です。通訳に対してどう感じているか、あらためて話し合おうとすると、なかなか反応を得るのが難しいかもしれません。たとえば、養成講座では実際に通訳する様子を見ながら、聴覚障害学生に「この通訳はどう？」とさりげなく聞くと意外な答えが返ってくるときもあります。本人にとってはやっと出た一言ですので、このときに「でも…」と反論することは避けたいものです。

また、同じように通訳をつけて授業を受けている聴覚障害学生同士で「通訳についてどう感じるか」議論する場があると、なおよいでしょう。自分の思いが個人的な好みによるものなのか、ほかの聴覚障害学生にも共通する感情なのか、見極められるようになります。

(3) 主体的活用段階での支援

ここにきて、ようやく一方的に支援を受ける段階を脱して主体的に動き始めます。不満が噴出しやすいときですが、自分の要求を言語化し始めた証として受けとめていきたいところです。ときには無理難題を突きつけられることもあるかもしれませんが、そのような場合を含めて、全ての要望

をのむ必要はありませんが、「無理」と却下するのではなく、「それは」という理由で厳しいけれど、こういう方法はどうか」と、大学として代替案を示すのが大切になるでしょう。

お互いの要望や事情をすり合わせて、建設的に話し合い、折り合っていく過程が、聴覚障害学生にとっても自信となっていくようです。

概して、既存の支援にはない新しい要求を出す学生や、一つの支援に多くを求める学生は、後々、支援を受ける立場から自らも後輩を支援する立場へと回ったり、支援者の養成に積極的に関わったりする例が多くみられます。これも長い目で見守りたいところです。

全段階を通じた支援

日ごろからの関わりだけでなく、全段階を通じて大学と聴覚障害学生が定期的に（年数回）話し合う時間が持たれると、互いへの安心感や信頼感がより深まることでしょう。

大学にとっては、聴覚障害学生の本音を引き出すのは一仕事かもしれません。大学の事情が許せば、数々の聴覚障害者と接してきた通訳者なり聴覚障害者なりを支援スタッフに迎えるのが望ましいでしょうが、それが難しい場合でも、こちらのPEPNet-Japanなどのネットワーク等を活用して他大学と情報交換することで「(1)消極的反應段階での支援」で述べた例のような支援も可能になるでしょう。

強調しておきたいのは、同じ聴覚障害の仲間（ピア）を持つ大切さです。大学生ならば、「全日本ろう学生懇談会」「関東聴覚障害学生懇談会」等で討論会、講演会、キャンプ、スキーなどの企画が行なわれていますので、折をみて「こういう企画があるみたいね」と伝えるとよいかもしれません。卒業後、職場や家庭で何らかの問題が生じたときも、学生時代に培った同じ聴覚障害者のネットワークが大きな救いになってきます。

ケースによっては、まれに、聴覚障害に造詣の深い心理専門家による支援が必要な場合もあります。現時点では、このような専門家は限られていますので、都道府県の聴覚障害者向け情報提供施設に問い合わせるのも一方法です。

聴覚障害学生にとって、さまざまなコミュニケーション手段を身につけることが人間関係の幅を広げるように、さまざまな手段の支援を活用していくことが、社会的活動の場を広げていくことになります。社会的活動をより充実させていくためにも、支援によって生じる心理的葛藤を軽減するとともに、質の高い通訳を提供していくこと、きめ細かな支援コーディネートをすることが、非常に大切になってきます。

執筆者 吉川 あゆみ（よしかわ あゆみ）

関東聴覚障害学生サポートセンタースタッフ

（2006年5月14日初版）

発行 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) <http://www.pepnet-j.com>

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

支援交流室 聴覚系 WG 内 担当：白澤麻弓

PEPNet-Japan は、日本財団の助成による PEN-International (本部：ロチェスター工科大学 NTID 内) の事業の一部です。本シートは、アメリカ北東地域テクニカルアシスタントセンター (NETAC) の作成による TipSheet を基に、PEPNet-Japan が日本版 TipSheet 作成事業 (代表：松崎文) の一環として作成したものです。本シートの内容の無断複写・転載を禁じます。

